

農業の登録内容は頻りに変更されます。農業は最新情報を確認して使用しましょう。最新情報は府・農の普及課、JA、Web版大阪府農作物病害虫防除指針 (<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>) から。農産物の病害虫発生予防については大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ (<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

営農総合センター 営農指導課 (072-444-8001)



水稲

◆種もみの比重選と消毒

- ①種もみの準備
乾もみで10a当たり4kg程度用意する。
- ②育苗箱の消毒
育苗箱は事前にきれいに洗い、イチバン乳剤(5000~10000倍/瞬時浸漬または散布)で消毒しておく。
- ③比重選
充実した種子を種もみとするため、比重選を行なう(表1)。沈んだ種子を種もみとし、比重選後は十分水洗いをする。
- ④種もみの消毒
比重選の終わった種もみは水を切った後、網袋等に5分目程度入れ、薬液(表2)に24時間浸漬する。このとき、薬液の温度は10℃以下にしな

表1. 比重選における比重と硫安の量(水10ℓあたり)

種類	比重	硫安	食塩
うるち	1.08	1.4kg	1.1kg
もち	1.06	1.0kg	0.8kg

表2. 種もみの消毒に登録がある農薬

対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数/使用方法
ばか苗病 いもち病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 苗立枯病 (リゾブス菌、トリコデルマ菌) ごま葉枯病 褐条病	テクリードCフロアブル	200倍	浸種前/1回/24時間種子浸漬
いもち病 苗立枯病 (リゾブス菌)	エコホープDJ ^(※2)	200倍	浸種前~催芽前/ -/24時間種子浸漬
ばか苗病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病	エコホープDJ ^(※2)	200倍	浸種前~催芽前/ -/24~48時間種子浸漬
イネシロガレセンチュウ	スミチオン乳剤 ^(※3)	1000倍	は種前/1回/ 6~72時間浸漬

※1 薬液の量は種もみの体積と同量以上作る。
※2 エコホープDJは微生物を有効成分とした、環境にやさしく、安全性の高いイネ種子伝染性病害防除剤である。微生物を有効成分としているため、薬液は反復使用を避け、24時間以内に使用する。また、過度の風乾を避ける。なお、エコホープDJはテクリードCフロアブル等、一部の農薬との同時処理ができない。
※3 スミチオン乳剤はメーカーにより登録が異なるので、ラベルを確認して使用する。

い。
・浸漬中は1~2回袋を薬液中で揺すり、十分薬液が浸透するようにする。
・消毒が終わった後、水洗いは絶対に行なわない。
・消毒後は水切りし、1日程度陰干しを行ない、種子に薬剤をしつかりと付着させる。
◆浸種・芽だし
十分に吸水させ、もみ自身が持っている発芽阻害物質を浸出させて、発芽ぞろいを良くするため浸種を行なう。
種子消毒の終わったもみを水に漬け、ハト胸程度に催芽させる。浸種日数は、水温が20℃では4~5日程度で、あまり水温が高いと発芽がふぞろいになる。水は種もみの体積の2倍程度必要。2日くらい経過し、水が濁ってきたら静かに水を入れ替えてきたら静かに水を入れ替えて

表3. さまざまな害虫防除に登録がある農薬

害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たりの散布流量
アブラムシ類	トレボン乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで/3回以内	100~300ℓ/10a
	アードント水和剤	1000倍	収穫前日まで/4回以内	150~300ℓ/10a
	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100~300ℓ/10a
	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫前日まで/3回以内	100~300ℓ/10a
アザミキイロ	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで/4回以内	100~300ℓ/10a
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000倍	収穫前日まで/3回以内	100~300ℓ/10a
	アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100~300ℓ/10a
	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100~300ℓ/10a
アザミキイロ	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで/4回以内	100~300ℓ/10a
	アードント水和剤	1000倍	収穫前日まで/4回以内	150~300ℓ/10a

※モスピラン顆粒水溶剤、アフアーム乳剤、アルバリン顆粒水溶剤は、アザミウマ類で登録がある。

◆緑化

出芽した白い芽に徐々に弱い
◆は種
育苗箱に育苗培土を入れ、ムラなく平らにし、十分かん水する。1箱当たり催芽もみで180g(乾もみ160g)を均一にまき、種が隠れる程度に覆土する。出芽までかん水は行なわない。
◆出芽
は種後、25~30℃程度に2~3日保てるようビニールや保温シートを上からかぶせて保温する。育苗箱の積み重ねは、10~15枚程度とし、一番上には土を入れた育苗箱を置く。保温の途中、温度差による出芽ムラをなくすため、上下の箱の積み替えを行なう。

野菜

水なす

◆トンネル早熟栽培

トンネル早熟栽培では生育を早めるため、引き続きトンネル被覆を行なう。日中はトンネルのすそを開けて換気し、トンネル内が高湿にならないようにする。開口部は徐々に広くし、5月中旬をめどに除去する。

また、着果促進のため、ホルモン剤処理を行なう。ホルモン剤処理には、トマトトーンの50倍液を用い、開花当日に噴霧する。樹勢が弱い場合は一番果をとる。

◆病害虫防除

露地、トンネル早熟栽培では、ウイルス病予防のため、アブラ

もも

貯蔵養分による生育から、新葉の光合成による養分へと切り替わる時期であり、新根や新梢の伸長、果実の肥大が盛んとなる。そのため、新梢管理、摘果、袋掛け、病害虫防除と作業が遅れないよう計画的に行なう。

◆摘果と袋掛け

生理落果の様子を見ながら、摘果は2~3回に分けて行なう。早生品種は、30~80cmの長果枝に品質の良い果実がなりやすいため、最終的に長果枝の中央部付近に1~2果、30~50cmの中果枝に1果を残し、5月中下旬から袋掛けを行なう。

◆晩生品種は、10cm程度の短果枝を中心に残す。残す割合は、短果枝5本のうち1本に1果となるように行なう。

◆病害虫防除

5月上旬に、黒星病や灰星病、うどんこ病の防除に、ストロピードライフロアブル(20000倍/収穫前日まで/3回以内)を散布する。また、アブラムシ類、シンク

ムシ類やアザミウマ類の防除に努める。
ハウス栽培では、ミナミキイロアザミウマやミカンキイロアザミウマなどの発生に注意し、発生初期の防除に努める(防除薬剤は表3を参照)。

つとねびん

◆病害虫防除

べと病の被害が増加する時期である。密植やチソソ肥料が多いと発生が助長される。は種量を減らして薄まきし、ハウスの換気を行ない、多湿を避ける。適切な肥培管理に努め、被害葉はほ場に放置せずに、処分する。5~6月は、べと病の被害が多くなるので、発生前にはZボルドー(5000倍/1~1)で防除する。ただし、散布後は白く汚れる。
*Zボルドーは、野菜類で登録がある。

じまつな

◆肥培管理

栽培期間が30日程度と短くなるので、前作の肥料の残存量を勘案し、施肥量は減らす。ハウス内では水分不足になると要素欠乏などの生育障害が出るため、土壌水分に注意する。また、露

果樹

みかん

◆開花期の防除

訪花昆虫(コアオハナムグリ、ケシキスイ類)は、幼果にひつ

*農薬名の後の括弧内は、(希釈倍数/使用時期/総使用回数)を表示しています。

イムシ類、モモハモグリガの防除には、ロディー乳剤(1000倍/2000倍/収穫前日まで/5回以内)を散布する。ウメシロカイガラムシが発生している園では、オリオン水和剤40(1000倍/収穫14日前まで/2回以内)を散布する。

5月中旬には、せん孔細菌病の防除に、バリダシン液剤5(500倍/収穫7日前まで/4回以内)を散布する。
*オリオン水和剤40は、カイガラ虫類で登録がある。また、散布時は、オリオン水和剤40のみで使用する。

うめ 病害虫防除

黒星病は、老木での発生が多い。5月上旬に、ストロビードライフロアブル(2000倍/3000倍/収穫7日前まで/3回以内)を散布する。

また、カイガラムシ類が発生している園では、5月上旬にスプラサイド乳剤40(1500倍/収穫14日前まで/2回以内)を散布する。

ストロビードライフロアブル、スプラサイド乳剤40の散布に当たっては収穫前日数に十分注意する。

*農薬名の後の括弧内は、(希釈倍数/使用時期/総使用回数)を表示しています。

*スプラサイド乳剤40は、小粒核果類で登録がある。

◆美肥

5月中旬に、10a当たり燐加安S403(14,10,13)を20kg施用する。

いちじく 芽かき

芽かきは、葉が3~4枚展開する頃に行なう。一文字整枝で、せん定時に2芽残した場合は、次のポイントに注意する。

- ①上芽は勢力が強くなり過ぎるので取り除く。
- ②なるべく主枝に近い節の芽を残す。
- ③生育の早過ぎるものや遅過ぎるものを取り除き、生育をそろえる。
- ④果実へ十分日光が当たるよう、主枝の片面で結果枝が40cm間隔となるようにする。

◆病害虫防除

アザミウマ類の防除には、5月末~6月上旬に、モスピラン顆粒水溶剤(2000倍/収穫前日まで/3回以内)を散布する。



お米で健康

朝ご飯のすすめ



一日のスタート。朝食はきちんと食べていますか? 少しでも長く布団の中にいたい気持ちも分かりますが、10分早く起きてしっかりと朝ご飯を食べることをおすすめします。

「朝ご飯をしっかりと食べている人の方が成績が良い」とはよく聞きますが、サラリーマンに至っては「朝ご飯を食べる人の方が年収が良い」というデータもあります。

これは、勉強や仕事をするときに活動する「脳の唯一のエネルギー源」がご飯などに含まれる炭水化物が分解されてできるブドウ糖だからと考えられます。朝ご飯をしっかりと食べないとぼーっとした状態で午前の時間を有効に使えていないことなるのです。

成績や仕事の効率だけでなく、朝ご飯を食べ、そしゃくすることで血行が良くなり肌つやもアップします。女性はお化粧の時間の短縮にもつながり、余計な化粧品代がかからなくて済むかもしれません。体温も上がりやすくなるので、冷えなどの改善にもつながります。

管理栄養士・雑穀料理家 ● 柴田真希

おすすめの朝食は、やはり「ご飯とみそ汁」。ここに納豆やサケの塩焼き、お漬物などが付いたら言うことありません。最近ではスムージーなどもはやっていますが、スムージーはそしゃくできないというデメリットもあります。食べながら顎周りのエクササイズはできないのです。しっかりと飲んで顔の血色を良くするには「ご飯」の方が良いでしょう。

もしも朝食を家で取る時間がない人は「おにぎり」にするのもおすすめです。お母さんは朝から少し作業が増えてしまいましたが、成績アップ、年収アップのために愛情込めたおにぎりを作ってみてはいかがでしょうか。

